

日医ニュース

2026. 10. 5 No. 1559

発行所

日本医師会
Japan Medical Association〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.jma.or.jp
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



トピックス

- 定例記者会見 2面
- 令和6・7年度会内委員会答申・報告書 4面
- 日医君のクロスワードクイズ 8面

令和8年度シンポジウム

未来ビジョン「若手医師の挑戦」の地方版を京都で初開催

若手指導医が専門分野で学び直した内容を発表し競い合う



令和8年度シンポジウム「未来ビジョン「若手医師の挑戦」 in KYOTO」が8月29日、京都府医師会館で開催された。

当日は7名の若手指導医がそれぞれの専門分野で学び直した内容を発表し競い合う「Re-1グランプリ」など、京都発の若手医師の取り組みを会場やWEBによる参加者400名以上が見守った。

チームが「普通の内科医、地域医療に迫る」と題して講演を行った。

大阿久内科部長は、地方の総合病院で働くに至った経緯や地域医療の魅力などを語ることも、自身も参加した勉強会「臨床研修根拠瓦塾KYOTO」について紹介。

医局や病棟の垣根を越えて行われる本勉強会は「特定の施設に偏らない医師会だからこそ成り立つ場だ」と述べるとともに、教わる側も教える側も勉強になる他、研修医として学んだ側が指導医として教える側に回るサイクルもできていると説明。その上で、「こうした取り組みに関わる中で、医師会という組織が一気に身近になった」と話した。

井道宣京都府医師会会長は「若手医師の先生方に企画から実行まで全て任せており、今回のシンポジウムは若手医師のみならず、京都府医師会の挑戦でもある」と強調した。

第1部「京都府医師会における若手支援に向けた取り組み紹介」では、大阿久達郎京丹後市立弥栄病院内科部長／京都府医師会屋根瓦ワキキング

チームが「普通の内科医、地域医療に迫る」と題して講演を行った。

大阿久内科部長は、地方の総合病院で働くに至った経緯や地域医療の魅力などを語ることも、自身も参加した勉強会「臨床研修根拠瓦塾KYOTO」について紹介。

大阿久内科部長は、地方の総合病院で働くに至った経緯や地域医療の魅力などを語ることも、自身も参加した勉強会「臨床研修根拠瓦塾KYOTO」について紹介。

医局や病棟の垣根を越えて行われる本勉強会は「特定の施設に偏らない医師会だからこそ成り立つ場だ」と述べるとともに、教わる側も教える側も勉強になる他、研修医として学んだ側が指導医として教える側に回るサイクルもできていると説明。その上で、「こうした取り組みに関わる中で、医師会という組織が一気に身近になった」と話した。

井道宣京都府医師会会長は「若手医師の先生方に企画から実行まで全て任せており、今回のシンポジウムは若手医師のみならず、京都府医師会の挑戦でもある」と強調した。

第1部「京都府医師会における若手支援に向けた取り組み紹介」では、大阿久達郎京丹後市立弥栄病院内科部長／京都府医師会屋根瓦ワキキング

チームが「普通の内科医、地域医療に迫る」と題して講演を行った。

大阿久内科部長は、地方の総合病院で働くに至った経緯や地域医療の魅力などを語ることも、自身も参加した勉強会「臨床研修根拠瓦塾KYOTO」について紹介。

大阿久内科部長は、地方の総合病院で働くに至った経緯や地域医療の魅力などを語ることも、自身も参加した勉強会「臨床研修根拠瓦塾KYOTO」について紹介。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

第2部「Re-1グランプリKYOTO」は、京都府医師会館で開催された。

当日のシンポジウムの模様は日本医師会公式YouTubeチャンネルで4本に分けて掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



フルバージョン

学医部附属病院医療安全（管理）部）は医療安全について、医療法の改正により本年4月から体制強化が図られたとした上で、「医療安全はプロとして生きる医療者全員の共通言語。全診療科の専門医にとっても必須の共通科目となっている」とした。

また、医療現場では「EIT is Human（人は誰でも間違える）」という考え方が大前提としてあるが、医療安全を支える「Safety-1」（失敗を防ぐ考え方）と「Safety-2」（成功を最大化する考え方）という二つの概念は、いずれも不可欠だと強調。その上で、「個人を責める精神論を捨て、エラーを前提に、命を守るシステムを皆で設計する」と語った。

池端副会長は「本日のような取り組みを全国にも広げ、若手医師の皆さんの情熱を全国に伝えていきたい」と総括。松井京都府医師会会長は「若手医師の皆さんも指導医になれるよう学び、その学んだことを指導医として若手の医師に伝えていく。そうした積み重ねが、これからの京都の医療、日本の医療のためにもなる」と語り、本シンポジウムは終了となった。

ことや、MRIやCTを用いたtPA療法や血栓回収療法などについても概説。他方、「ただけ優れた治療法があっても、一人では脳梗塞の患者を救えない」として、医療従事者などのチームワークの必要性を強調するとともに、「Time・Tissue・Teamの3T is Brain」をぜひ覚えてほしいと呼び掛けた。

武部弘太郎医師（京都府立医科大学救急医療学）は呼吸困難について、「司令」換気「ガス交換」のどこで障害が生じているのかを考えて鑑別し、治療を進める必要があると説明。さらに、自身が経験した症例を踏まえ、「診療に当たっては、病態を考えて動くことが大切になる」と強調した。

渡辺杏里医師（京都府立医科大学精神機能病態学）は自身が眠れない場合に服用するであろう薬を、「単に眠れない」「不安で眠れない」「趣味も楽しめない上に眠れない」といったケースごとに説明。その上で、「患者に処方する際も同様に、患者の立場を踏まえつつ、『薬の処方本当に必要か』『睡眠衛生指導を行う余地は無いのか』といった視点をもつことが大事になる」と語った。

加藤果林医師（京都大

令和8年熊本地震での JMAT活動を紹介した動画を公開中！

日本医師会はショート動画「日本医師会災害医療チームJMATの活動 シリーズ1」を制作し、公式YouTubeチャンネルで公開しています。

7月28日に熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震が発生したことを受けて、日本医師会では直ちに松本吉郎会長を本部長とした災害対策本部を設置しました。その後、翌29日には第1回災害対策本部会議を、WEB形式で開催するとともに、31日には日本医師会災害医療チーム「JMAT」の派遣を全国の医師会による支援体制に拡大することを決定。被災地での支援活動に尽力してきました。

今回の動画は、実際に「JMAT」として活動されている医師の方々から提供を受けた写真の一部を使ってその活動を紹介するとともに、被災地の医療を取り戻すまで、「JMAT」の派遣を継続していくという日本医師会の決意を示したものとなっています。ぜひ、ご覧ください。



動画は
こちらから

「『はくおうⅡ』は国の事業であるとはいえ、水足秀一郎熊本県医師会長にはJMATだけでなく、事務局職員の継続的派遣に、また、西文明八代市医師会長には地元の医療機関との調整や事務局職員の派遣等にそれぞれ尽力いただいた」として、改めて両医師会に対して感謝の意を表明した。

その他、今回の熊本地震における対応を振り返り、「多数の患者が発生する一方、被災地の医療機能が大きなダメージを受けて、対応困難になるという状況には幸いにもならなかった」とした上で、「どのような災害にも様々な特色があり、対応策も異なる。大切なことは被災地の住民や患者

さんの生命や健康を守ることにあり、支援ニーズに柔軟に反応することができる体制づくりを今後も進めていきたい」と意気込みを語った。なお、「はくおうⅡ」での入浴・宿泊支援は9月13日に終了となり、藤原慶正常任理事が再び現地に入りし、運用終了を見届けた。

いとせきエチケットの徹底（2）室内の換気（3）十分な睡眠と休養——が重要と強調。加えて「残暑の時期は体の倦怠感や頭痛を夏バテと勘違いしやすい、インフルエンザへの警戒が薄れがちになる」として警鐘を鳴らすとともに、これらの症状がある時は自己判断せず、早めに医療機関を受診してほしいとした。

最後に同常任理事は、新学期を迎えている学校や幼稚園、保育園等の集団生活の場では、飛沫や接触による感染が広がりやすいとして注意を喚起。さらに、高齢者や基礎疾患のある方、小児・児童のいる家庭では特に注意が必要であるとの認識を示した上で、「日本医師会としても、今後のインフルエンザの感染状況を注視し、必要な情報を随時発信していく」と述べるとともに、感染拡大を防ぐための一人ひとりの行動が大きな力となるとして、協力を求めた。



うつさない! うつらない!

日本医師会

9月9日

定例記者会見

船舶医療における JMATが果たす役割の 意義を強調



松本吉郎会長は「令和8年熊本地震」におけるJMAT（日本医師会災害医療チーム）の活動の

松本会長はまず、「はくおうⅡ」での医療提供が始まった経緯について、（1）船舶医療活用法の成立を受けて、昨年3月に閣議決定された政府の推進計画には、日本医師会から硬直的な運用とならないよう、「脱出船、救護船に限らない、船舶の多目的な利用」を提案してきた結果、「5. 多目的利用」という文言が明記されていた、（2）「はくおうⅡ」の活用目的は元々、避難者への入浴・宿泊支援だったものの、八代市を始めとした地域医療に被災の影響が生じている状況を踏まえ、熊本県医師会や八代市医師会の働き掛けによって、8月1日に木村敬之郎熊本県知事から防災担当の赤間二郎内閣府特命担当大臣（当時）に対して「船舶を活用した医療の実施」を要請した——ことなどを説明。

併せて、①JMATに参加した医師のレポートでも「はくおうⅡ」の活動は、震災フェーズが急性期を過ぎた状況下における支援として有益だった」と報告されている。②「はくおうⅡ」で診察を受けた患者から御礼状が届いている——ことなども紹介し、その活動の意義を強調した。

その上で松本会長は、「『はくおうⅡ』は国の事業であるとはいえ、水足秀一郎熊本県医師会長にはJMATだけでなく、事務局職員の継続的派遣に、また、西文明八代市医師会長には地元の医療機関との調整や事務局職員の派遣等にそれぞれ尽力いただいた」として、改めて両医師会に対して感謝の意を表明した。

今年度の流行開始は、1999年に感染症法が施行されて以来、2009年に次いで2番目に早く、昨年は9月下旬に流行開始したことを鑑みると、今年は早期からの警戒が必要状況にあると指摘。また、地域別に見ると、一部の地域では既に患者報告数が高水準に達しており、今後、全国的に更に感染拡大する可能性があると、注意

を呼び掛けた。同常任理事はまた、インフルエンザワクチンの供給状況についても言及。9月第2週から医療機関への納品が順次開始される見込みであり、同月第5週の時点で、今シーズンの供給量全体の6割を超える約3147万回分が出荷される予定であることを報告した。

その上で、早期の流行開始を踏まえ、厚労省より、ワクチンの供給や医療機関・地域の医師会との調整がついた自治体については、今年度の定期接種の開始時期を例年より前倒しすることが法令上可能である旨が、各自自治体に周知されたことを紹介。「お住まいの自治体や、かかりつけの医療機関によっては、接種開始の時期が異なる場合がある。接種を希望する方は自治体からのお知らせや、かかりつけ医に確認してもらいたい」と呼び掛けた。

さらに、インフルエンザの感染拡大を防ぐ上で、（1）こまめな手洗

インフルエンザの 流行開始と ワクチン供給状況に ついて



うつさない! うつらない!

日本医師会・日本女子ソフトボールリーグ機構合同記者会見 日本医師会後援により 日本女子ソフトボールリーグ機構が ピンクリボン運動を実施へ



左から茂松副会長、松本会長、宇津木JDリーグ副会長、今田主将、後藤選手

松本吉郎会長は9月9日、宇津木妙子日本女子ソフトボールリーグ機構（JDリーグ）副会長／キャプテンらと共に合同記者会見を実施。同機構が実施するピンクリボン運動を後援することになったことを明らかにするとともに、スポーツの力を通じて、より多くの方々ががん検診の重要性への理解が広がることに期待感を示した。

同機構では2022年のリーグ発足初年度より、ピンクリボン運動の取り組みを開始。選手が

がん検診の受診者増につながることを期待
——松本会長

松本会長は、同機構の運動を後援することになった理由について、「こ

れまで日本医師会ががん検診の受診率向上を目指して、日本対がん協会が行っている『ピンクリボンフェスティバル』の後援の他、女性のがんに関するシンポジウムの開催等を通じて、がん検診の重要性を呼び掛けてきたが、それに相連するものがあつたからだ」と説明。今後は本活動の周知に加え、ポスターや公式戦での観客へ配布するグッズの活用等を通じて、今回の運動に協力していく姿勢を示した。

9人で守るグラウンドから9人に1人の未来を守る
——宇津木JDリーグ副会長

宇津木日本女子ソフトボールリーグ機構副会長は、JDリーグでは同機構のミッションとして「ソフトボールで社会に笑顔をもたらし、健康『感謝』『個性』『表現』をコアバリューとして、選手が健康である、（2）一人ひとりが自分らしく輝く、（3）私たちの活動を通じて、地域社会の健康や笑顔につながるべく——ことを目指している」と説明。

ヘルスリテラシーを高めることを目的として 動画を制作



Part1



Part2

昨今、健康・医療に関する情報はネットなどで簡単に入手できる時代となりましたが、玉石混交の情報から正しく適切な情報を取捨選択するためにも、ヘルスリテラシーを高めることが求められています。

日本医師会では、そのような状況を踏まえて、この度ヘルスリテラシーを高めてもらう活動の一環として、動画シリーズ「アップデートしよう！ わたしのヘルスリテラシー」を制作し、2本の動画を公式YouTubeチャンネルで公開しました。

●「Part1.その情報、信じて大丈夫？」

SNSなどで広がっている「スベ120」〔身長（cm）から 体重（kg）を差し引いた数値が120となるのが理想の体型だとする指標〕を取り上げ、この言葉を信じて無理なダイエットをしてしまう若者に対して注意を呼び掛けるとともに、信頼できる情報を見分けることの大切さを伝えています。

●「Part2.ヘルスリテラシーってなんだろう？」

ヘルスリテラシーとは、どのような能力なのかを説明した上で、その力が高い場合と低い場合ではどのようなことが起きるのかなどを具体的な例を挙げて説明。その重要性を認識してもらうとともに、その能力を高めるために、日頃からできることなどを紹介しています。

ぜひ、ご覧ください。

希望する会員の先生方に本動画のデータをプレゼント

なお、希望する会員の先生方には本動画のデータを2本セットで差し上げています。（1）所属機関、（2）氏名、（3）電話番号——を明記の上、タイトルを「ヘルスリテラシー動画希望」として、下記までメールにてお申し込みください。頂いたメールアドレス宛に動画のダウンロードURLをお送りします。

問い合わせ・申し込み先：

日本医師会広報課 ☎03-3946-2121（代）、✉kouhou@po.med.or.jp

て正しく知ること、自分の身体に関心をもつこと、必要な時に医療につながるなど、こうした大切なメッセージを医療の専門家である日本医師会と一緒に発信すること、これまで以上に多くの方に届けていきたい」とその意気込みを語った。

また、本活動は2028年まで継続して取り組む。さらに、「日本医師会が有する医療の専門的な知見と、JDリーグが持つスポーツの力を掛け合

わせることで、ピンクリボン運動をより大きな社会の動きへと発展させていくことを目指したい」とした。

今年の主な取り組みである①球場をピンクに染める②プレスト・アウェアネスの普及③応援を支援につなげるチャリティ④持ち帰れる小さなきっかけ——については、戸田中央メディックス埼玉の今田主将並びに投手の後藤希友選手がそれぞれ報告を行った。

今田主将は、①について、10月のリーグ戦において、全チームの選手・監督、審判がピンク色のユニフォームやキャップ等を着用して試合に臨むことを説明。来場者には「ピンク色のアイテムを身につけて球場に足を運んでいただき、一緒に活動盛り上げてほしい」と呼び掛けた。

②に関しては、JDリーグ全16チームの選手が出演する啓発動画を制作したことを紹介。SNSや球場のビジョンなどで発信し、「自分の身体に

関心を持つこと」の大切さを選手の言葉で伝えるとともに、試合会場では日本対がん協会の「ほぼえみ基金」に寄付する予定であるとし、「スポーツだからこそ生み出せる、温かな循環を広げていきたい」と述べた。

④に関しては、試合会場において、来場者にオリジナルステッカーを配布することを明らかにし、「このステッカーを身近なものに貼り、日常生活の中で目にした際に『自分の健康について考えてみよう』『大切な人の健康について考えてみよう』と思い出してきかけになってくれればありがたい」とした。

令和6・7年度 会内委員会答申・報告書

(全文は日本医師会ホームページ「メンバーズルーム」に掲載)

救急災害医療対策委員会報告書 「直近の情勢を踏まえた医師会の 救急災害医療対策について」



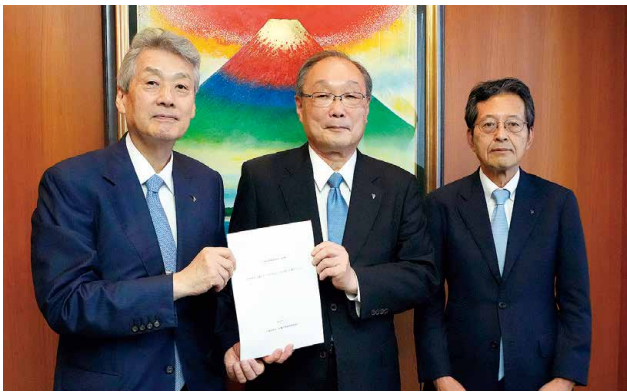
CTを活用した全国的な情報共有の基盤整備を国に対して求める——ことなどを日本医師会に対して提言している。

「地域包括ケアシステムにおける救急医療」WGの報告書では、高齢者の救急搬送が増加する中で、救急医療機関、在宅医療、介護・福祉、消防機関との情報共有の在り方について重点的に検討。その結果を踏まえ、

「1」各地域での取り組みを体系的に収集・分析し、より広域な情報共有や連携に向けた横展開の推進を図る、「2」救急と在宅、介護施設との情報共有は受け入れ医療機関の病床利用の適正化に資し、地域医療体制の維持にもつながるため、積極的な情報共有・連携の推進を図る、「3」救急現場ではADL、要介護度、患者のACPやDNARなどの情報が参照できない現状を踏まえ、I

「地域包括ケアシステムにおける救急医療」WGの報告書では、高齢者の救急搬送が増加する中で、救急医療機関、在宅医療、介護・福祉、消防機関との情報共有の在り方について重点的に検討。その結果を踏まえ、

医事法関係検討委員会報告書 「いわゆる『善きサマリア人法』の わが国への導入について」



は、いわゆる「善きサマリア人法」を日本に導入することの是非について検討した結果を報告書として取りまとめ、担当の渡辺弘司常任理事同席の下、森本紀彦委員長(島根県

「3」では、各分野から有識者や専門家を招いて講話をしていただいた内容や、説明を受けて得た知見を「民法の緊急事務管理規定と刑事法の過失の関係」「医師の救護行為の法的性質」「航空機内での急病者対応について」「立法の視点」に分けて、記している。

「4」では、日本医師会が実施した「医療施設外での急病人等の救護に関する意識調査」や、令和8年5月に開催した「いわゆる『善きサマリア人法』について考える公開シンポジウム」の内容を紹介。多くの医師は、偶然遭遇した急病者に対して、可能な限り救護することを第一に考えていること、その際の法的責

任の問題についても強い懸念を抱いている現状を確認することができたとしている。

「5」では、法制化するにしても、医療関係者等に限定することなく、広く国民全般を対象とする法律を目指すことが適当ではないかとの意見が委員会内では有力であったことを報告。医療界、医師会に対しては、日頃

医療安全対策委員会答申 「医療事故調査制度の 取り組みを日常の医療安全に 活かすための方策について」



「1. はじめに」「2. 院内調査の要点2024」で提示した理念の確認

「3. 医療事故調査制度の取り組み」

「4. 課題解決に向けた今後の取り組み」日常の医療安全を向上させるために「5. むすび」で構成されている。

「6」では、日本医師会に対して、国民の生命と健康を守るための重要な問題の一つである「善きサマリア人法」について、継続的な検討を重ねていくことを要望している。

南から北から

兵庫県
兵庫県医師会報
NO.836より

メルクマール

仁木 敏晴



小さな文字が読めなくて、老眼鏡がなければ仕事にならない。まして文庫本を読むには老眼鏡と拡大鏡とが必要になるため、読書離れをして久しくなる。ただし、ずっと心に留めている作品がある。サン・テグジュペリの『星の王子さま』だ。

高校2年の夏休み明けの話である。英語のA先生が、教壇の上から『星の王子さま』の文庫本を皆に見せて、『今年の夏休みにはこの本を読み返した』とおっしゃった。別に当時の教材だったわけでもない。原文や英訳を読まれたわけでもなかった。ただ自分が年齢を経るごとに、読み返しては感じる事が変わっていくとお話だと紹介された。

「何回目だったか忘れたが、今回も面白かった」と。そのA先生のせりふが、私の心深くに刻み込まれた。そんな事を言いそうにない先生だったからかもしれない。

『星の王子さま』は、誰もが知っている児童文学の金字塔。特徴的な挿絵は一目で分かるが、大

好きなお話ではなかった。A先生は何を面白いと言ったのだろう？心の隅に引っかかったままであった。

ようやく2025年に転機が訪れた。NHKの「100分まるごと」がサン・テグジュペリを取り上げたのだ。そこで初めて、作者の経歴や思想を知った。黎明期の飛行機パイロットであったこと、サハラ砂漠に不時着して遭難したこと、第二次世界大戦の最中に『星の王子さま』を執筆した

こと。天地の感覚さえ失われる砂漠での臨死体験、そして戦争に対する葛藤。この物語には想像を絶する背景があったのだ。

謎解きの鍵を見つけた。思いで文庫本を読み直してきた。生きていく上で避けられない様々な普遍的テーマが盛り込まれている。なるほど、読者の年代によって感じる事が変わっていくはずだ。

A先生が鬼籍に入られてもう10年が経つだろう。A先生は何度この物語を読み返されたのだろう？そして私はこれから何度、この本を読み返せるだろう。

山口県
山口県医師会報
第1985号より

実のある暮らし

中野 朋子



実家の庭には父が植えたたくさんの樹木があった。子どもの頃のお気に入り。今でも懐かしい。父が、今でも面白かったと。そのA先生のせりふが、私の心深くに刻み込まれた。そんな事を言いそうにない先生だったからかもしれない。

『星の王子さま』は、誰もが知っている児童文学の金字塔。特徴的な挿絵は一目で分かるが、大

好きなお話ではなかった。A先生は何を面白いと言ったのだろう？心の隅に引っかかったままであった。

ようやく2025年に転機が訪れた。NHKの「100分まるごと」がサン・テグジュペリを取り上げたのだ。そこで初めて、作者の経歴や思想を知った。黎明期の飛行機パイロットであったこと、サハラ砂漠に不時着して遭難したこと、第二次世界大戦の最中に『星の王子さま』を執筆した

こと。天地の感覚さえ失われる砂漠での臨死体験、そして戦争に対する葛藤。この物語には想像を絶する背景があったのだ。

謎解きの鍵を見つけた。思いで文庫本を読み直してきた。生きていく上で避けられない様々な普遍的テーマが盛り込まれている。なるほど、読者の年代によって感じる事が変わっていくはずだ。

A先生が鬼籍に入られてもう10年が経つだろう。A先生は何度この物語を読み返されたのだろう？そして私はこれから何度、この本を読み返せるだろう。

埼玉県
大宮医師会報
通巻第842号より

夜露死苦A

関口 昌人



古井由吉氏に『漱石の漢詩を読む』という著作があります。漱石は小説家として有名ですが、英語に堪能であったのと同じく、俳諧や漢詩にもその才能を遺憾なく発揮しました。幼少期の漢文素養が、その後の漢詩や文学の才能開花の基礎となっていたといわれています。

漱石の文学的達成の根底に「漢文」があるという観点は、漱石研究における極めて重要な視点となっている。古井氏が同著で示したように、漱石にとって漢詩は単なる趣味ではなく、自己の精神を最も純粋に吐露できる表現形式でした。幼少期の漢文トレーニングが、漱石の文学的骨格を作ったことは多くの資料で裏付けられており、彼の漢詩は中国の詩人を読んで

は台風によられて収穫はゼロだった。だが今年は台風の影響がなかったお陰もあり、これまでで最高記録となる6個の実が育っている。年末には収穫祭を行うつもりである。残念ながら八代のオナー制度は終了してしまっただけで、我が家の庭の晩白柚の木はこれからは大きな実をつけて私を幸せな気持ちにしてくれることに感謝している。

晩白柚の他に柚子やレモンの木からも収穫の喜びをもらっている。柑橘系の木は春に咲く花の香りが気持ちをリフレッシュさせてくれる。実が少しづつ大きくなると愛おしくなる。そして収穫は最高のご褒美だ。実ある暮らしが送れていることに感謝している。

文、和語に変換しながら、われわれは生活を営んでいるわけだ。意識もせずにやっているが、実は脳の中のどこかに、言葉を変換する中枢があって、それを常に働かせているわけだ。しかも、漢字には一字の内にいろいろな意味が総合されている。われわれは読み取るために、そこから一つの意味を分析して引き出している。これは翻訳です。それを常にやっているのです。そうやって日本語という言語が成り立ってきた。(古井由吉『漱石の漢詩を読む』より引用、一部表記調整)

こうして「翻訳」の感覚は、現代の日本人にも形を変えて息付いている。象徴的なものが、かつての暴走族が用いた「夜露死苦」といった当て字です。これを見た中国人小説家が「まさに詩的だ」と笑ったという話を聞いたことがあります。「夜露死苦」という言葉は死の苦しみを露わにする——そう読み解けば、それはもはや漢詩の一節のようでもあります。

そこで思い立って、Aに五言絶句の形式で「夜露死苦」を組み込んだ漢詩を作ってもらいました。

作品：夜露死苦
夜露寂無声
露湿少年旌
死生同夢処
苦樂結盟情
(読み(書き下し文))

夜は静かにして声無く
露は少年の旌を湿す
死生夢を同じうする処
苦樂盟の情を結ばん
〔意味〕
起句：夜はしんと静まり
返り、物音一つしない
承句：夜露が、若者たちの掲げる旗を静かに濡らせている
転句：生きるも死ぬも同じ夢を共に見るこの場所
結句：苦しみも楽しみも分かち合う、熱き絆(盟約)を結ぼうではないか
〔解説〕
構成：五言絶句
押韻：第2句末の「旌」と、第4句末の「情」で韻を踏んでいる(平声・庚韻)。
工夫：各句の冒頭に「夜・露・死・苦」を配置する「冠字」の技法を用いた。恐るべしA！、暴走族の当て字という世俗的な言葉が、漢詩の形式に流し込まれることで精神的な盟約の詩へと数秒で昇華されるという面白さを感じました。何という自由自在な世界でしょう。人工知能が漢詩を作ったと知ったら、漱石は何と言ったでしょう？高校時代の漢文の教科書を引っ張り出して、漢詩の勉強をしようとしたが諦めました。素養の無さはいかんともし難いようです。

そういえば、愛羅武勇、仏恥義理なんてももありましたね。

厚生労働省指定の医師紹介事業

医師の求人・求職は、日本医師会ドクターバンク!

医師のライフステージやキャリアプランと、医療機関の求人条件を専任の担当者が丁寧にコーディネートいたします。

日本医師会
ドクターバンク

日本医師会ドクターバンク

TEL 03-3942-6512 URL <https://jmadbk.med.or.jp>



©JMA

《日本医師会ドクターバンクの特徴》

- すべての医師・医療機関がご利用可能!
日本医師会の会員・非会員を問わずご利用いただけます。
- 地域ドクターバンクとの強力なネットワーク
都道府県医師会や行政の職業紹介事業所と連携しています。
- 年代・性別を問わず登録医師多数!
全国各地の医師と医療機関を繋ぎます。
- 登録から成立まで無料でサポート!
成功報酬もかかりません。費用を抑えた人材確保を進められます。

「日医君のわくわくミニゲーム！」 リニューアルのお知らせ

日本医師会ではこのほど、会員特典として、会員の先生方に提供していたブラウザゲーム「日医君のわくわくミニゲーム！」の内容をリニューアルし、本年10月1日よりその運用を開始しました。

このゲームは会員の先生方の医療機関や介護施設のご利用者に待ち時間などを有効活用して、ポスターに掲載された二次元コードをスマホなどで読み込むだけで手軽に楽しんでもらうために制作したもので、ゲームは下記の2種類となります。

「日医君の絵合わせゲーム」(NEW)

ピースを動かして、絵を完成させるパズルゲーム

【ゲームの概要】

1. 空いているマス隣のピースをタップして、ピースを移動させてみましょう。
2. 絵が完成したらゲームクリアです。

※絵は5種類(ランダム)で、レベルは「やさしい(2×2マス)」「ふつう(3×3マス)」「むずかしい(4×4マス)」の3段階



「日医君のくるりんゲーム」

6×6の盤面のミニ・リバーシ対戦

【ゲームの概要】

1. 1人対戦の時は日医君(コンピューター)と対戦、2人対戦の時はその場にいる方と対戦できます。
2. 制限時間内にコマを置いて、相手のコマをひっくり返してみましょう。
3. 最終的に盤上のコマが多い方が勝ちになります。



会員の先生方にはお手数をお掛けしますが、ご利用者に楽しんでいただけるよう、日本医師会ホームページのメンバーズルーム内の「医師会活動について」の中の「会員限定サービス」に掲載しているポスターを印刷し、待合室や病室、介護施設の休憩所などにご掲示いただきますようお願いいたします。

■注意事項：

- ・ポスターや二次元コードをSNS等に投稿・掲載することはご遠慮ください。
- ・通信料はご利用者様(患者様)のご負担となります。
- ・個人が特定される情報の取得はいたしません。

■問い合わせ先：日本医師会広報課 ☎ kouhou@po.med.or.jp

書籍紹介



緊急事態における首長のリーダーシップ
インタビュから浮かび上がる新型コロナ対応の教訓
西出順郎 編著



当初はどんな対応をすれば良いのかも分からず、世界中の人々を恐怖と不安に陥れた新型コロナウイルス。本書は、新型コロナウイルス

携「情報」のアンテナを

イルスによるパンデミックが起った我が国で、自治体はどう向き合い、対応したのか。自治体での実務経験もある5名の行政学者が、全国の15名の知事・市長と医療関係者2名に実際にインタビューした内容をまとめた記録集となっている。その中では、医療関係者の一人として日本医師会の池端幸彦副会長も登場。福井県医師会会長として対応に当たった当時を振り返り、「信頼できる人々の存在」「行政との連携」情報アンテナを



「痛み」という客観的な指標で測定することが簡単ではない現象に人類

痛みとは何か
歴史・文化・医学の視点からその本質を探る
ロフ・ボデイス 著
山田恵子 水沼直樹 松平浩 訳

トで殴られたような「くれば、受験生は脊髄反射的に「くも膜下出血」の選択肢を探す。しかし、実際にバットで殴られた経験を持っている人はそう多くはないはず。この手の「障害のイメージ」を借りた「痛み」の表現が医学の教科書には少なくない。

「痛み」という客観的な指標で測定することが簡単ではない現象に人類

50代医師のための Gemini & ChatGPT 実践書
論文・学会・臨床が驚くほど楽になる
三原 誠 著
梶田大樹 原 尚子

か終わらない。紹介状作成、スタンプ対応、メール、学会準備、論文など、気が付けば全部を自分で抱えている院長は少なくない。本書は、特に生成AIに苦手意識がある院長、医師に向けて書いた実践書である。難しい理論ではなく、患者説明文、院内マニュアル、スタッフ共有資料、メール文案など、明日から診療現場で使える工夫を紹介している。

著者の医療機関では全スタッフに「Gemini」を導入し、研究内容や院内マニュアルを漫画、音声、易しい文章、職種別資料へ変換して共有しており、知識量の違いがあっても、全員が同じ方向を向きやすくなり、タスクシェアとチームづくりが進んでいるという。

生成AIは医師に置き換わるものではなく、院長の時間と心の余裕を取り戻す相棒である。忙しい先生にこそ手に取っていただきたい一冊と言える。定価 3850円(税込) 発行 全日本病院出版会

診療が終わっても、院長(医師)の一日はなかなか

かかりつけ医もここまで診よう！
肛門部外来診療マニュアル
改訂第2版
栗原浩幸 著

総論「第Ⅱ章 知っておきたい肛門疾患」第Ⅲ章 肛門部の皮膚疾患「第Ⅳ章 肛門部の腫瘍性疾患」第Ⅴ章 肛門鏡で見る大腸疾患」の全5章で構成されている。

今改訂では、Crohn病患者の肛門病変や梅毒など、遭遇頻度が上がっている病態や緊急対応を要する病態が更に拡充されている他、乳児痔瘻や誤嚥による肛門異物・異物挿入なども追加されている、使いやすい。外来診療において「自分で診てよいのか」「専門的な措置が必要なのか」迷った際の助けにもなる便利な一冊と言える。定価 4950円(税込) 発行 南江堂

日本医師会医学図書館 利用案内

どこにいても大学図書館並みのサービス

複写を全国各地に発送可能
約110,000冊の蔵書
国内外の学術雑誌

- 医学図書館は、日本医師会ホームページの会員専用コーナー(メンバーズルーム)を通じて、ご自宅や勤務先などからご利用いただくことができます。
- 郵便・FAXによるお申し込みも承っています。詳しくは下記までご連絡ください。

日本医師会医学図書館

住所：〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
TEL: 03-3942-6492(直) FAX: 03-3942-6495
MAIL: jmalib@po.med.or.jp



